

INDEX

P.1

- ・スチューデント・ダイバーシティ・センター (SDC) の機能を再編
- ・ジェンダー・セクシュアリティに関する理解を深め、適切な対応を行うための3つのガイドブックを発行

P.2

- ・GSセンターあれから10年
- ・UDトークははじめました
- ・「育児休業取得率」「男女の賃金の差異」を公表

P.3

- ・密着！ボラリス ～学生3名がペットボトル洗浄業務を見学～
- ・育児・介護休業法の改正
- ・育児コミュニティの活動

P.4

- ・**連載** ワークライフバランス挑戦中！⑫
- 10年ぶりの没頭を経て
- ・募集しています！
- ・令和7年度ベビーシッター派遣事業割引券交付
- ・学内バリアフリー対応最新情報！

Topics

スチューデント・ダイバーシティ・センター (SDC) の機能を再編

2025年6月より保健センター学生相談室が担っていたカウンセリングを含む学生支援の機能をSDCに移管し、学生相談センター (SCC) となりました。以前よりSDC内にはアクセシビリティ支援センター (ARC) があり、修学上の合理的配慮の円滑な実施に必要な調整やリソースの提供を行ってききましたが、学生生活全般を通したカウンセリングを含む支援が必要なケースも多いため、SCCとARCとの連携を強化し、障がい学生を含む本学学生への支援をより充実させることとしました。

秋葉丈志スチューデント・ダイバーシティ・センター長より

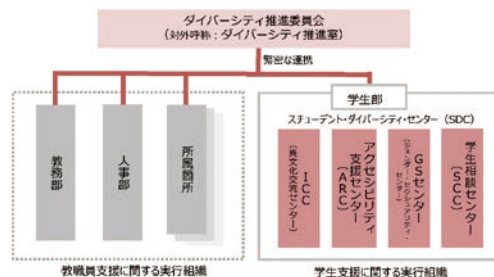
昔、留学先でいろいろなことがうまくいかなくて、思い悩んだことがありました。それに気づいた周囲がいろいろ支えてくれて調子を取り戻し、今の自分があります。私たちは誰も調子がよくないときもありますし、属性や特性ゆえに人知れず壁に直面する場合もあるでしょう。

スチューデント・ダイバーシティ・センター (SDC) では、障がい、ジェンダー・セクシュアリティ、国籍やエスニシティを問わず多様な学生が存分に活躍できるよう、全国に先駆けた取り組みをしてきました。このたび、旧学生相談室が学生相談センターとしてSDCに加わることで、個々の学生の心理状態や人間関係から、大学の制度や取り組み・啓発活動までを含む総合的なアプローチで、学生



Photo by IQCC

の修学支援を行う体制が強化されました。一人一人が輝く早稲田であるよう、ダイバーシティ推進室と連携し、SDC一体で取り組んでいきたいと思います。



石田京子ダイバーシティ推進室長より

今回のSDCの機能再編は、早稲田大学ダイバーシティ推進宣言の冒頭にある「一人ひとりの多様性と平等の尊重」の実践を、学生の目線でさらに一歩進めるものです。支援体制の一元化と連携強化により、多様な背景をもつ学生一人ひとりが、早稲田で自分らしく学び、挑戦できる環境づくりが一層進むと考えています。



Topics

ジェンダー・セクシュアリティに関する理解を深め、適切な対応を行うための3つのガイドブックを発行

①ジェンダー・セクシュアリティの多様性を踏まえた教職員向けガイド



②早稲田大学LGBTQ+学生生活サポートガイド



③サークル・課外活動DE&Iガイドブック



Topics

GSセンターあれから10年

Webサイトで詳しく



2017年に開設されたGSセンターはまもなく10周年を迎えますが、2015年3月に開催された「Waseda Vision 150 Student Competition」で総長賞を受賞した、ダイバーシティ早稲田チームの「日本初！LGBT学生センターを早稲田に！」と題した構想がGSセンター設立のきっかけだったことをご存知でしょうか？この受賞から10年経った今、ダイバーシティ早稲田チームのお一人渡邊翔さん（以下、翔さん）が本学を来訪してくださいました。



翔さんはGSセンターが実現する前に卒業されたので、自分たちの構想が元になったGSセンターへの来訪を楽しみにしてくださったのですが、同様に、GSセンタースタッフや関係者も自分たちの働くセンターの構想を作った翔さんの思いを直接お聞きできるこの機会を待ち望んで、様々な企画を用意してお迎えしました。

当時のダイバーシティ早稲田チームのプレゼンテーションの上映と感想・意見交換、翔さんと学生スタッフはるさんのトークセッション、翔さんと学生スタッフ・関係教職員全員での懇談会と3つのパートでしたが、常に活発な意見や質問が飛び交う濃密な時間を参加者全員で共有しました。

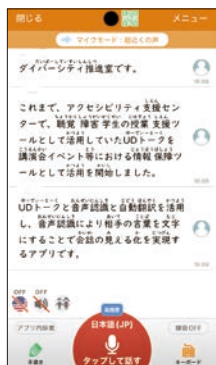
本記事を執筆しているダイバーシティ推進室職員は、Student Competitionの運営チームでダイバーシティ早稲田チームのサポートを担当して、10年前に翔さんたちの思いを聞いてぜひこのセンターを実現してほしいと思っていました。GSセンターが開設された時、その後自分がダイバーシティ推進室に異動してGSセンターと連携する機会ができた時以上にさらに発展したGSセンターをダイバーシティ早稲田チームの翔さんに見ていただいたのはとても感慨深かったです。

この記事では、来訪当日のさわりしかご紹介できていませんが、GSセンタースタッフはるさんがトークセッションの内容を執筆くださったエッセイが翔さんの深いお話を当時の思いを含めて、忠実に再現しています。ぜひ詳細をQRコードからご覧ください。

Topics

UDトークはじめました

Webサイトで詳しく



ダイバーシティ推進室（以下：推進室）では、これまでアクセシビリティ支援センターで聴覚障がい学生の授業支援ツールとして活用していた「UDトーク」を、講演会・イベント等における情報保障ツールとしても使用できるよう運用を開始しました。

「UDトーク」は、音声認識と自動翻訳を活用し、相手の言葉を文字にすることで会話の見える化を実現するアプリです。このアプリをスマートフォンやタブレット端末等にダウンロードすることで、集音した音声情報を文字情報として表示できます。

7月16日には、早稲田大学アカデミックソリューション社エクステンションセンターチームの社員5名に向けた説明会を開催し、基本操作から有効な活用方法等について実演を交えて説明するとともに、実際に操作を体験しながら効果を実感いただきました。同様の説明会をこれまで学内計5箇所で開催しています（原稿入稿時点）。具体的な情報保障申請がなくても、「UDトーク」に興味関心があり一度説明を聞いてみたい、という場合にはお気軽に推進室へご相談ください。推進室では、原則経費が発生せず操作も簡単なUDトークを情報保護支援ツールとして推進していく予定です。

※アプリの利用料は発生しませんが、集音マイクや文字表示用のインターフェイス等の外付け機材を使用したほうが望ましい場合もあり、この際の機材購入費用は講演会・イベント等の主催者負担となります。推進室の機材を貸し出しできる場合もありますので、必要な際にはご相談ください。

Topics

「育児休業取得率」「男女の賃金の差異」を公表

Webサイトで詳しく



育児・介護休業法および女性活躍推進法に基づき、「育児休業取得率」「男女の賃金の差異^(※)」を公表いたしました。

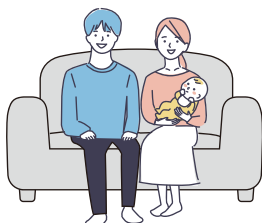
※女性の平均年間賃金÷男性の平均年間賃金×100%

■育児休業取得率

男性の育児休業取得率	41%
女性の育児休業取得率	75%

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日

- ・育児・介護休業法で定める「育児休業等の取得割合（育児休業等をした労働者の数／本人または配偶者が出産した労働者の数）による
- ・小数点第1位以下は切り捨て



■男女の賃金の差異

男女の賃金の差異 (2024年度)	任期の定めのない常勤教職員	87.4%
	任期の定めのある教職員等	111.0%
	全体	66.3%

対象期間：2024事業年度（2024年4月1日から2025年3月31日まで）

(注意・説明)

- ・本学の賃金体系、形態は男女で同一の条件である。
- ・「任期の定めのない常勤教職員」では、女性専任職員の新卒・既卒採用を強化する等の女性活躍推進の取組みにより、年齢分布において相対的に男性より女性専任職員の勤続年数が短いために相対的に賃金水準が低い女性専任職員が増え、平均年間賃金の差異が生じている。
- ・男性では「任期の定めのない常勤教職員」と「任期の定めのある教職員等」の人員数比率が1対3であるのに対して、女性では「任期の定めのない常勤教職員」と「任期の定めのある教職員等」の比率が1対6となっている。
- ・本学では「任期の定めのない常勤教職員」において積極的な女性雇用を進めているものの、前述の男女の人員数の違いによる影響と合わせて、相対的に賃金水準が高い「任期の定めのない常勤教職員」の人員数比率が男性のほうが高いため、「全体」として、男性と女性の平均年間賃金に差異が生じている。

今後も事業年度終了後速やかに更新・公表いたします。



本学は、障がい者雇用を通じて共生社会の推進を目指し、日本の私大でいち早く特例子会社^(※1)「株式会社早稲田大学ポラリス（以下：ポラリス）」を設置しました。ポラリスのスタッフは、主に清掃、事務補助、文書受付業務に従事し、大学の円滑な運営を支えています。



▲ポラリススタッフによるペットボトル洗浄作業を見学する学生

6月11日に、文化構想学部／フィールドワーク入門の授業課題「戸山キャンパスで働く方々を知る」の一環で、ポラリスの業務に興味関心を抱いた学生3名が、33号館B1Fで行われているペットボトル洗浄業務^(※2)の見学を行いました。

ペットボトルの①フタを外し、中身を捨てる、②カッターでラベルを切る、③ラベルをはがす、④内部を洗浄、という一連の作業工程を見学し、素晴らしいスピードと連携で無駄なく洗浄作業を進めていく様子に、学生からは感嘆の声が上がりました。ポラリス担当社員から「役割分担を徹底することでミスが発生しない仕組みの構築と作業の効率化の両方を推進している」という説明もいただき、学生は熱心にメ

モを取りながら耳を傾けていました。また、見学中や終了後にも積極的に多くの質問をいただきました。

ポラリスでは、会社概要や業務について、学生や教職員への理解を深めていただくための「見学会」も随時開催しています。興味関心のある方はQRコードよりご確認ください。

※1：障がい者の雇用に特別な配慮をし、一定の要件を満たした上で厚生労働大臣の認可を受けて、障がい者雇用率の算定において親会社の一事業所と見なされる子会社

※2：ペットボトル洗浄業務は早稲田キャンパス12-4号館（リサイクルステーション）でも行われています

見学した学生の感想（一部抜粋）

- これまでペットボトルをゴミ箱に捨てるたびに、誰がどうやって資源化しているのか？と気になっていた。ベルトコンベアーを利用しているかのようなスピード感と凄まじい集中力で、ペットボトル洗浄をしていくポラリススタッフの姿を見て、負担を少しでも減らせるように、ラベルやフタの分別など、出来ることをやっていきたいと思った。
- 役割分担がしっかりしていて、効率的に進められていたことが印象的だった。また、作業環境は温度や湿度の面で決して楽ではないにもかかわらず、皆さんが集中して黙々と作業に取り組んでいる姿に尊敬の念を抱いた。普段意識することの少ない大学の裏側に、多くの人の支えがあることに気づいたので、忘れないようにしたい。

2025年4月より「育児・介護休業法の改正」が段階的に施行されたことに伴い、本学でも両立支援制度を一部改正しました。

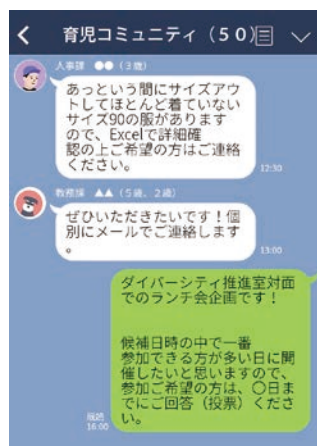
●出生後休業支援給付金および育児時短就業給付金の創設



同年4月から雇用保険法改正に伴い、子の年齢や養育の状況に応じて要件を満たす場合に支給される給付金として、出生後休業支援給付金および育児時短就業給付金が創設されました。

●子の看護休暇に関する改正

	改正前	改正後
名 称	子の看護休暇	子の看護等休暇
対象期限	小学校就学の始期に達するまで	小学校第3学年修了まで
取得事由	○病気・けが ○予防接種・健康診断	○病気・けが ○予防接種・健康診断 ○感染症に伴う学級閉鎖等 ○入園（入学）式、卒園式



▲LINEオープンチャットで交流イメージ

専任・嘱託職員を対象にLINEオープンチャットを活用した育児コミュニティの活動を行っています。オープンチャット上では自由に育児情報を交換したり、悩み相談等を投稿したりすることができます。暑い夏の遊び場をどうするかといった悩みから子どもの急な病気の際の対応の相談まで育児中の職員同士の情報交換にぜひ活用ください。また、オンライン上のつながりだけでなく、対面のランチ会も開催しています。

【コミュニティの活用方法】

①育児情報交換：参加者が育児（出産含む）に関して自由に情報交換や悩み相談できます。

②育児用品の譲渡：子どもの成長に伴い不要となった育児用品を希望者に譲渡したり、欲しい用品を希望したりすることができます。

③ダイバーシティ推進室からの情報：ダイバーシティ推進室からの育児支援に関する情報を受信できます。

④育児関連書籍の貸し出し：子育てのお悩み解決につながるかもしれない書籍をそろえており、コミュニティ参加者に貸し出ししています。

参加を希望される方は所属箇所、氏名を記載して以下の連絡先にメールください。

ikuji-comm@list.waseda.jp

※現時点では、対象は専任・嘱託職員のみです。

※育児中の方のみならず、プレペアレント（プレママ・プレパパ含む）もぜひご参加ください。



▲対面でのランチ会の様子

10年ぶりの没頭を経て

キャンパス企画部 小平 知香

●より快適に両立できる環境を求めて

設計事務所勤務時に出産した息子（小4）と、大学に籍を移し2年目に出産した娘（年長）の2人の子どもがいます。もっとも手のかかる育児期は過ぎつつあることもあり、周りの方からはうまく両立しているように見えるようですが、過去の困難や失敗のエピソードは山ほどあります。1人目出産後、一人前になるのに10年修行と言われる世界での育児は覚悟していた以上に過酷でした。建築士としての経験もタイムマネジメントも未熟で何より仕事に没頭したい時期と重なり、頻繁に体調を崩す持病のある息子を毎度病児保育に預け、悪化に気づかず入院してもなお職責を優先して病室で付き添えなかったことは今でも忘れられません。気がつけば家族は疲弊し、自身も息子と過ごす時間も育児の喜びを感じる余裕もない、快適とはほど遠い両立時期を経験しました。

その後、より快適に両立できる環境を求めご縁あって本学に入職することになりますが、2人目出産後は大学の充実した育児支援制度や両立しやすい環境による恩恵を受け、さらに2人目育児の余裕も加わり育児を楽しみながらよいリズムで両立生活を回せるようになりました。身近に多くを共感できる育児仲間がいることや、両立生活を続けていく上で道しるべとなる多様なロールモデルがいる環境も安心感があり私には合っているようです。一方で、大学での両立生活にも慣れてくると今度はもっと仕事がしたいと葛藤した時期もありました。家族と職場の理解を得ながらタイミングを見極めた上で早めにフルタイムに戻り、直近2年ほどは仕事に対する充実度を高めながら自分にとっての心地よい働き方を追求しています。徐々に求められる役割も変容していくと思いますが、コロナ禍以降続いている夕食は家族で過ごす習慣は続けていながら日々小さな幸せを積み重ねていきたいと思っています。



▲すっかり丈夫に成長した息子 元氣なサッカー少年です

●単身ニューヨーク研修へ

2025年1～3月大学からの派遣プログラムでニューヨーク・マンハッタンに滞在する機会を得ました。大学と所属部から全面的支援を受け、職員と



▲娘が着色したNY。子どもの豊かな想像力や色彩感覚に驚かされます（左からクライスラー・ビルディング、滞在先近くのセント・ジョン・ザ・ヴァイン大聖堂）

しての国際感覚とキャンパスプランニングの専門性のさらなる高度化を目指し、現地での活動に専念するため思い切って子どもたちを夫に託し単身で渡米することにしました。

東京ーNY間は昼夜真逆でしたがビデオ通話でいつでも家族の顔が見られコミュニケーションは予想よりもスムーズで、他にも“おてがみ”に夢中な娘のため各所訪問先から手紙を送るという、現代技術と古来の手段の両方により楽しいリズムづくりの創出を工夫しました。夫の理解と奮闘と柔軟な働き方に支えられ、また普段遠方に住む両親や姉たち、シッターさんの厚いサポートのおかげで、心配をよそに子どもたちは母不在の日々を健やかに逞しく乗り越えてくれました。

私自身のNYでの生活は、派遣先のニューヨーク大学を中心に多くの人的交流から刺激を受け、時間がある限り都市型大学に足を運び大学街やキャンパスを歩き、インタビューを重ね報告書をまとめ続けることに専念することができました。米国政権の影響で各大学が緊張を強める中、強力な支援者の御尽力により滑り込み訪問が叶ったことも幸運でした。勇気を持ってコンフォートゾーンを抜け出し10年ぶりに一つのことに集中し没頭できたこの経験により、帰国後は本学やキャンパスが以前とは異なる風景に見えるだけでなく、本来の自分を取り戻し今後の働き方やキャリア形成に対する考えにも変化がありました。これからは子どもたちの成長に寄り添いつつも、無意識のあきらかに気づき挑戦を忘れず経験を積み重ねながら、自分らしい心地のよい生き方を追い続けていきたいと考えています。



▲帰国後は子どもたちの時間が最優先です

●オフタイムの建築活動

数年前に自邸を設計し建築しました。難易度の高い密集地の狹隘立地、フレキシブルに空間を変えていけるよう間仕切りのない4層を階段・吹抜けでつなげたシンプルな空間構成です。毎年少しずつ改装を重ね今年は10歳になった息子のためにパーソナルスペースを創るため、週末に愛する家族のためにゆったりとデザインを考える時間を楽しんでいます。

小平 知香（こびら ちか）

一級建築士

■ 略 歴：大学院修士課程修了後2008～2017年建築設計事務所を経て2017年～早稲田大学キャンパス企画部

■ 家族構成：夫・息子・娘の4人家族

募集しています！

「ワークライフバランス」に取り組んでいる、または取り組もうと考えている教職員をご紹介ください。育児、趣味、学び、介護、ボランティア、推し活など、仕事以外で力を入れていることをご紹介ください。応募のメールはQRコードから。（自薦他薦は問いません）



INFORMATION

令和7年度ベビーシッター派遣事業割引券交付

本学教職員の育児と仕事の両立を支援するため、子ども家庭庁（公益社団法人全国保育サービス協会に委託）が実施する「ベビーシッター派遣事業」を利用して「ベビーシッター派遣事業割引券」を発行しています。詳細は右のQRコードから。



学内バリアフリー対応最新情報！

- ・西早稲田キャンパス56号館1階床の凹凸面を改修
- ・西早稲田キャンパス51号館前スロープに滑り止めを実施
- ・西早稲田キャンパス59号館4F出入口と63号館4F出入口自動扉化
- ・早稲田キャンパス17号館に「だれでもトイレ」を設置

編集・発行

早稲田大学ダイバーシティ推進室

〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104

<https://www.waseda.jp/inst/diversity/>

Web

